

# ホオジロ

*Emberiza cioides*

ホオジロ科・夏鳥



撮影：浦幌野鳥倶楽部

ホオジロ（オス）

## 名前の由来

眼の下部が白く頬が白ということで「ほほじろ」と呼ばれた。漢字名：頬白

魚類

底生動物

## 特定種

該当なし

## 形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）16.5cm。スズメよりも少し大きく、尾は長め。オスは顔が黒く、ほおの白とのコントラストが目立つ。目の上に白く太い眉斑（眉のような模様）がある。頭や背は茶褐色で黒い筋があり、胸と脇は茶褐色、腰は赤褐色。

メスは顔が黒くなく褐色で、ほおは白っぽく、全体に色が淡い。

声：繁殖期には「チョッピーチロロ、チチロッピー」というような澄んだ声でさえずる。

地鳴き（さえずりではない普通の鳴き方）では「チチッ」とか「ツツッ」などと2音ずつ鳴くことが多い。

歩き方：スズメのように両足をそろえて、はねながら移動する。

類似種と区別点：カシラダカ、ホオアカ。

カシラダカは下面が白く胸に褐色の帯と黒い縦斑がある。

またオス夏羽の頭上と顔は黒い。

ホオアカの頬は赤褐色で頭上は灰色、胸に黒と褐色の帯がある。

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ



ホオジロのオス。  
黒い顔、白い頬と眉とのど、茶色い頭と胸



ホオアカ。ほおが赤褐色で頭は灰色

## 生息環境・分布

低地や低山帯の藪地を好む。広大な草原や原生林では見られない。十勝では夏鳥。

分布：ユーラシア大陸中緯度地方の東半分分布する。

日本では屋久島以北の全土に留鳥としてふつうに繁殖する。

北海道には4月中旬に渡来。夏鳥として繁殖する。東部では少ない。

十勝には、夏鳥として4月中旬に渡来。平野部の農耕地周辺、河川敷など開けた所に生息、繁殖する。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期				繁殖								
本州以南 (越冬期・通年)	繁殖											

## 食性・他生物との関わり

イネ科、カヤツリグサ科、タデ科、キク科、マメ科などの種子を食べる。昆虫も食べるが、特にヒナの餌としてガの仲間やバッタの仲間を捕まえる。

地上を歩行しながら草の種子などをつまみあげ、しばしば

穂にとまってつまみとり、もぐもぐとくちばしを動かして種子をとりだして食べる。

捕食者は猛禽類など。

## 繁殖生態

繁殖期は4～9月、一夫一妻で繁殖する。

繁殖期にはなわばりに分かれるが、行動圏は繁殖の進行に伴って変化する。(→興味深い話の項参照)

地上や藪の小枝の又の上に置くようにして、お椀形の巣を作る。枯れ草、草の根、枯れ葉などを巣材に使い、内装には細根、細い葉、獣毛などを用いるという。巣づくりはメスのみが行い、オスはメスにつききりとなる。(→興味深い話の項参照)

3～5個産卵し、メスだけが卵を抱き、オスは警戒に当たって盛んにさえずる(山岸、1978)。

約11日でヒナがかえり、約11日で巣立つ。オスメス共同でヒナを養うが、ヒナを抱くのはメスのみが行う。

巣立った幼鳥はその後25～29日くらい親の給餌を受けるといふ。(→興味深い話の項参照)

年に1～3回繁殖する。(→興味深い話の項参照)

## 興味深い話

■ 標識調査で、6年6ヶ月の生存が確認されている。

■ 日本中どこにでもいる鳥で、国土の64%で繁殖しているといわれる。

■ 「チョッピーツ、チッピー」というさえずりを「一筆啓上仕り候」とか「源平つつじ茶つつじ」などと聞きなしている。

■ 1羽のオスはさえずりのパターンを十数通り持っており、同じパターンを十数回から百回以上繰り返した後、次のパターンに移るといふ。

■ 未婚のオスは行動圏が小さく、さえずり活動は激しいといふ。つがいとなったオスはそれ程さえずらなくなるといふ。

■ 繁殖期、オスの行動圏は藪地で0.4～0.6haくらい、草原で0.8～1.9haくらいで、巣作りの時期には広く、産卵・抱卵の時期には狭くなり、ヒナを育てる時期には再び広がるという。

■ 巣作りはメスのみが行うが、オスはメスに対して巣作りを促すディスプレイ(誇示のための行動・動作)を行うと

いふ。

■ 1シーズンに最大5回繁殖産卵を行い、合計23個の卵を産んだ例があるといふ。

■ 子育ての時期に外敵が近づくと、親鳥はけがをしたふりをして外敵の気を引くといふ。これを擬傷といふ。

■ 巣立ちが不ぞろいの場合、先に巣立ったものをオスが、後に巣立ったものをメスが分担するといふ。



ホオジロ(オス)の正面顔。  
顔の白い模様がくちばしを中心にしたXマークに見える

## 配慮事項

低木の疎林と草原が入り混じったところが大事。

### 参考文献

- 「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)  
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995  
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000  
「野鳥ボックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994増補版7刷)  
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

- 「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所、1996  
「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997  
「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987  
「鳥のおもしろ私生活」ビッキョ 編著、主婦与生活社 1997

山岸哲 (1978) ホオジロの社会構造と繁殖番い数の安定性. 山階鳥研報, 10: 199-299.

Ymagishi, S. (1971) A study of the home range and the territory in Meadow Bunting (*Emberiza cioides*). 1. Internal structure of home range under high density in breeding season. Misc. Rep. Ymashina Inst. Ornith., 6: 356-388.

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシタカ